

シェアワセを届ける
シゴトがあります

「みんなのシェアワセ」を
応援します

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会

川崎市社会福祉協議会は、川崎市における社会福祉事業、その他の社会福祉を目的とする事業の健全な発達及び社会福祉に関する活動の活性化により、地域福祉の推進を図ることを目的として活動しています。

本会は、川崎市内において、自治・福祉・保健・医療・教育の活動を行う団体・組織等の会員で構成されています。

お問い合わせ 川崎市 中原区 上小田中6-22-5 川崎市総合福祉センター6階
電話:044-739-8710 <http://www.sfc-kawasaki.jp>



「シェアワセを届けたい」を
応援します

川崎市福祉人材バンク

福祉に関する仕事の無料紹介や就職相談会の開催、福祉関係の研修を実施しています。また、福祉の仕事の魅力発信、将来の福祉人材のための普及啓発を行っています。

お問い合わせ 川崎市 中原区 上小田中6-22-5 川崎市総合福祉センター5階
電話:044-739-8726 <http://www.csw-kawasaki.or.jp/jinzai/>



シェアワセを届ける人 介護のプロインタビュー



価値観を広げてくれる

身近な存在として寄り添う



本質的なケアを目指す



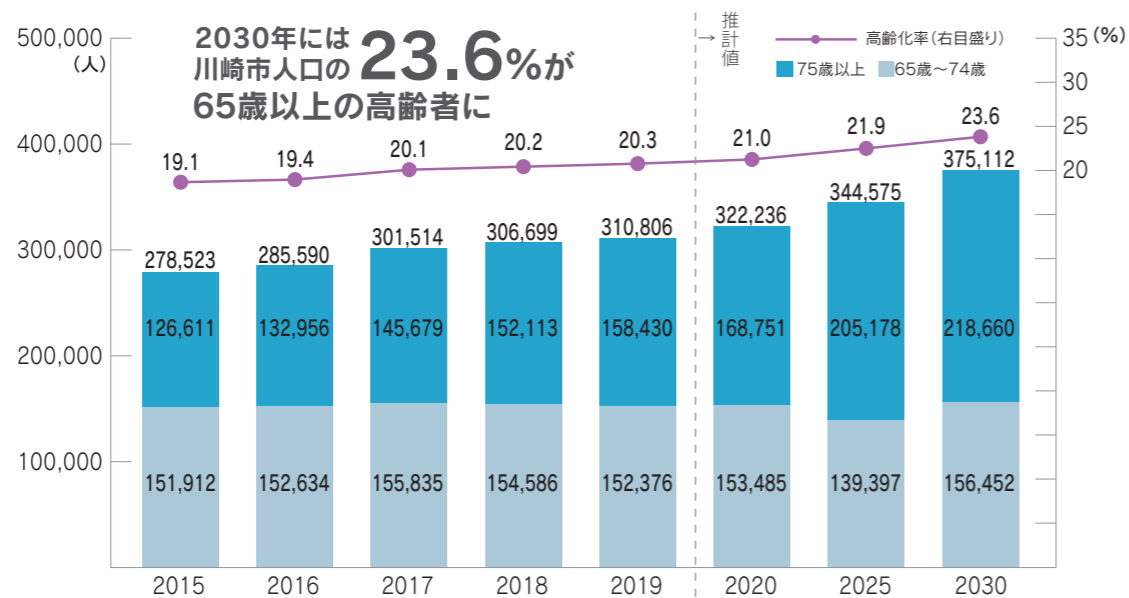
日々の現場での刺激がエネルギー



シゴトが あります シアワセを 届ける

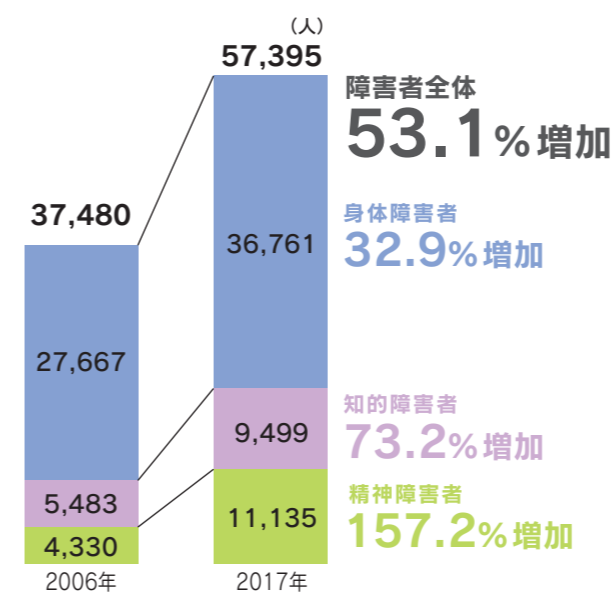
介護の仕事は、身体上・精神上の理由により日常生活に支障のある方が社会の一員として尊厳ある自立した生活を送れるように、さまざまな角度から寄り添い、支援していく仕事です。
「ありがとう」の言葉が生まれる介護の現場。
ケアによって人と人の心が通いあう、そんなかけがえのない瞬間があなたを待っています。
介護という仕事を通して、一人の人として誰かの人生に寄り添うことは、何ごとにも代え難い経験になるでしょう。
ぜひ介護の仕事の楽しさ、奥深さに触れてみてください。

川崎市の高齢者人口及び割合の推移

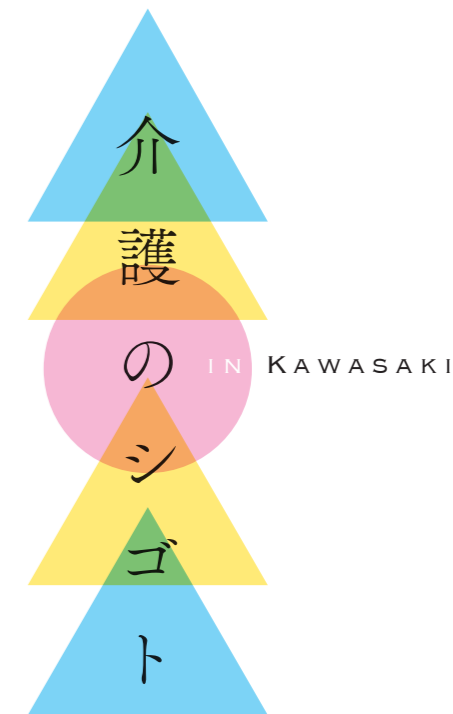


「川崎市高齢者・障害児者福祉施設再編整備基本計画・第1次実施計画」より

川崎市の障害者手帳所持者数の推移



「川崎市高齢者・障害児者福祉施設再編整備基本計画・第1次実施計画」より



CONTENTS

- 主な介護の仕事…………… 2～3
- シアワセを届ける人…………… 4～7
介護のプロ インタビュー
- 介護の職種…………… 8
- 主な介護サービス…………… 9
- キャリアパス…………… 10
- 介護福祉士への道…………… 11

主な介護の仕事



生活援助

利用者の意思を尊重し、日常生活を支えるのが生活援助です。自宅に訪問し、利用者が自力で行うことが困難な掃除、洗濯、調理、買い物、薬の受け取りなどの家事業務を支援していきます。個人宅に入っていく業務であるため、利用者に安心してもらえる関係性を築くことが重要となります。



社会活動支援

利用者の社会参加をサポートし、社会の一員としてより良い生活を送れるように支援するのが社会活動支援です。介護が必要な利用者や、身体・知的・精神障害のある利用者が、地域の身近な人間関係から孤立したり、社会との接点を失ってしまうことを防ぐために、地域の催しや活動情報などを共有し、社会参加を継続できるように支援していきます。



身体介護

利用者の身体に直接触れて介護を行うのが身体介護です。老人ホームやグループホーム、サービス付き高齢者向け住宅、短期入所施設などで食事介助や排せつ介助、入浴介助、更衣、口腔ケア、清拭などを行い、利用者が一人で行うことが困難な生活動作をサポートします。近年は「介護助手」や「介護補助」などと呼ばれる、介護資格を保有していない方向けの業務を経てから身体介護職を目指す方も増えています。



相談・助言

入居希望の方や入居中の利用者、またその家族の方などに、介護に関する専門的な相談業務を行うのが相談・助言です。老人福祉施設や病院、地域包括施設支援センターなどで、生活上の相談や、介護にまつわる各種サービスの案内、契約、退居の手続きまで幅広く担当するため、介護の知識だけでなく一般的な契約法や介護保険法などの法的な知識も必要になります。

山口道子

MICHIKO YAMAGUCHI

やまぐち みちこ:40歳/宮前区の軽費老人ホームに勤務。介護職員。
福祉の短大卒業と同時に「介護福祉士」取得。20年の福祉職員のキャリアの中で、旅、結婚、出産、子育てを経験。現在、3人の子どもを育てながら、介護職との両立を模索中。

介護の仕事が、
自分の価値観を
広げてくれた



山口さんは子育てをしなが
現役でお仕事されていますね。

現在、7歳、4歳、0歳の3人の子どもがいます。介護の現場で働き始めてからは、ちょうど20年になりますね。福祉の短大を卒業して地元の佐賀から介護士のキャリアをスタートさせ、その後川崎に移り、結婚・出産を経験しました。家事や子育てをしながらの仕事は、思い通りにいかないことも多く大変です。でも、日々利用者さんと接するのが本当に楽しくて、仕事は気分転換や趣味の場所という解放された感覚でできています。

子どもたちには、自分が働いている姿を見ていて欲しいです。仕事を通して、「子どもたちがいるから自分は頑張っていること」を伝えられたらいいなと思います。子どもの成長段階に合わせて仕事を幅を広げ充実させていくのが、今後10年の目標です。

福祉職への関心はいつ生まれたのでしょうか？

小学校6年生の時に交換学習で養護学校に行ったのが福祉の世界との出会いでした。その時の体験が忘れられずに福祉の短大へ進学。特別養護老人ホームの実習で利用者さんと接したと

きに、「福祉の仕事しかない!」とビビッときました。高齢者の方にはなんだか怖いイメージがあったのですが、実際は本当に優しい方ばかりでとても心が癒されたこと。そして何よりも、介護の現場は人と人との助け合いでできていることを知り、この仕事に就くと決めました。

介護の仕事を長く続けられたのはどうしてでしょうか？

やはり「この仕事が好きだから」というのが一番ありますが、様々な経験をさせてもらう中で自分の価値観を広げていけたことが大きかったと思います。

実は働き始めて5年経った頃、「今の自分では介護の仕事は務まらない」と感じた時期がありました。利用者さんは自分よりずっと年配の方。実に様々な経験をされてきた方がたくさんいます。そのような方に対して、自分はいつも決まった言葉でしか接することができない。相談相手になるには、あまりにも自分の視野が狭すぎると感じたんです。

そんなとき、世界一周を経験した同僚やスウェーデンへ福祉の勉強をしに行く同僚に刺激を受け、私も一度世界へ出てみようかと半年間仕事を休んで旅に出ました。この期間でぐっと価値観が広が

りましたね。そして旅をしていると、やはり高齢者の方ばかりが目について、「またこの仕事に戻って来たい!」と思ったんです。

現在勤務している川崎の職場には、旅から戻って同じ法人内で働いていたときに立ち上げの話をいただいたのがきっかけで来ました。仕事を始めた当初は九州から出るのが怖かったのに、世界へ行き、今こうやって川崎で生活しているのは、介護の仕事を通してたくさんの刺激的な人との出会いがあったからかもしれません。

20年間ずっと同じ法人で働く中で、ケアハウス、訪問介護、デイサービスなどさまざまな業務を経験し、「こういう世界もあるんだ!」と常に価値観が広がってきた感覚です。



3人の子どもを育てながら介護の仕事をする山口さん。仕事が終わった後は、職場併設の託児所にお迎え。

和田昌俊

MASATOSHI WADA

わだ まさとし:33歳/中原区の障害者支援施設に勤務。生活支援員チーフ。
福祉大学卒業後、障害者支援施設(通所)に12年間勤務。次世代の職員の育成にも注力。「衛生管理者第1種」勉強中。趣味は筋トレと旅行。



利用者さんと接する上で、大切にしていることはありますか？

障害者支援施設に勤務する中で一番大切にしていることは、現場での利用者さんとのコミュニケーションです。とくに知的障害のある方の場合、表出している言葉や行動は心境のごく一部であることが多いため、さらに奥にある本当の気持ちを汲み取ることが重要になってきます。利用者さんの中には、自分の気持ちに我慢して、言葉に出さず、しんどくなってしまふ方もいるんですよ。

「自分はこの人にきちんと寄り添うことができているのか?」と自問自答を繰り返し、悶々とすることもあります。利用者さんの「やりたい気持ち」を実現していけるような環境が作れたときや、利用者さんに「ありがとう」と言葉をかけてもらったときは、自分の悩みもどこかへ吹き飛ばすような喜びを感じ、気分爽快になりますね。

身近な存在として寄り添い、その人と幸せを共有する。そして誰かの思い出になれることが、福祉の仕事続ける原動力になっています。

12年間のキャリアの中で大変だったことはありますか？

実は、職場での人間関係が原因で一度だけ仕事を辞めたいと思ったことがあります。その時は施設長に状況を相談したことで解決したのですが、対人関係の業務がほとんどを占める福祉の現場で良好な人間関係を築くのは、今でもとても苦勞する点ですね。職員同士で対話ができなくなってしまうと、それが利用者さんの生活に影響してしまうこともあるので、普段からコミュニケーションを多くしてお互いが話しやすい関係づくりを意識しています。

福祉の仕事には正確な答えがない業務が多いので、どうしても結果が見つかりにくい。それが難しい点であり、同時にやりがいでもあると感じているのですが、業務で行き詰まったとき、私は趣味の筋トレでモヤモヤした気持ちを発散しています。どんな仕事をしていてもそうだと思いますが、やっぱりリフレッシュする時間は大切です!

そもそも、和田さんが福祉の仕事をしたきっかけは何だったのでしょうか？

福祉の仕事を意識したのは高校生のとき。幼いころから近居していた祖父が病気で体調を崩し、サポートが必要になったのがきっかけです。大好き

身近な存在として
寄り添う心で
共に人生を歩みたい

な祖父が病気で時折辛い表情になるのを見て、「自分にできることは何だろう?」と考える時期が続きました。

会話をしたり一緒にテレビを観たりしながら、祖父と何気ない日常を共有すること。それが私が出した答えでした。本当に必要なサポートとは、特別に何かをしてあげるのではなく、「その人に変わりなく寄り添うこと」だと、祖父と接する中で感じたからです。この思いが、福祉の仕事をした原点になっていると思います。祖父と過ごした最期の時間は、一緒に高校野球の中継を観ていました。これは今でもずっと心に残る大切な思い出です。



利用者さんと近くの公園に外出するのも日々の業務。和田さんの声かけで利用者さんの感情が引き出され、楽しい時間が流れていく。



田口 涼
RYO TAGUCHI

たぐち りょう:33歳/幸区の特別養護老人ホーム勤務。生活相談員。
専門学校卒業後、「介護福祉士」「介護支援専門員」を取得。
現在は「社会福祉士」取得を目指し勉強中。妻と子ども2人の4人暮らし。



多方面から介護を見る
“バランス力”で
本質的なケアを目指す

田口さんはいつ福祉の仕事に興味を持ったのですか？

私が高校生まで住んでいたのは、ご高齢の方が家を行き来するような町でした。ご高齢の方と接する機会がたくさんあったので、幼い頃から自然と福祉の仕事には興味を持っていました。「福祉職はおじいちゃんおばあちゃんと楽しくお話をすること」という程度の軽い認識だったのですが(笑)。

その考えが変わったのが、高校の福祉実習で介護老人保健施設に行ったとき。実際の現場を見て衝撃を受けたのです。身体介助が必要な方や、認知症でコミュニケーションを取るのが困難な方など、さまざまな高齢者がいることを初めて知りました。そこで排泄介助を任せられたときに、想定外の出来事が起こり硬直してしまって、うまく対応ができなかったんです。でもそれを見たスタッフの方がテキパキと対応されて、利用者さんが「ありがとう」と嬉しそうなお表情に変わった。ケアによって利用者さんの感情が引き出された場面を目の当たりにし衝撃を受けたと同時に、「これが本当の介護なんだ」と感動しました。このとき、自分の目指すところは「福祉」だと

感じたんです。

生活相談員、ケアマネジャーとは
どういったお仕事なのでしょう？

施設の窓口として入居の案内をしたり、入居者さんやご家族の方の意向を反映して最適なケアプランを提案する仕事です。学校卒業後は介護士として働いていましたが、より広い視野でその人をケアできる立場でいたいと感じ、この仕事を選びました。

介護は、現場でのワンマンプレイではなく、介護士、ケアマネジャー、医師、看護師、機能訓練士、管理栄養士、厨房の職員等の専門職が連携を図って進めていく多職種協働のチームケアです。その人らしい生活を多方面からケアしていくこと。それが「本質的な介護」だと日々感じています。

本人やご家族の多様なニーズを、まずは受け入れる姿勢でいること。自分と意見が違って、それが利用者さんにとって害のないことであれば、他職種と連携をとる、家族の確認をとる、一度試してみるなど、さまざまな方法を提案していける「バランス力」を意識していきたいですね。現在は、「社会福祉士」の資格取得に向けて勉強中です。

福祉の仕事に興味のある方は、
何から始めれば良いのでしょうか？

福祉の仕事に興味があっても、いきなり現場に入って直接介護をすることに抵抗がある方もいらっしゃると思います。しかし最近では、フロアアシスタントや介護補助員という名前で、洗濯、食器洗い、シーツ交換、オムツやタオルの準備などの間接業務を行ないながら現場に触れられる仕事も増えています。高校生のアルバイトを受け入れている施設もあるんですよ。このように、福祉の仕事はだんだん身近なものになりつつあるので、比較的目指しやすい職業へと変化してきていると感じます。ぜひ、福祉の世界に一歩足を踏み入れてみてください。



田口さんが面談した利用者さんご家族の方と記念撮影。最適なケアを提供するためには親密なコミュニケーションが欠かせません。

山崎 映子
EIKO YAMAZAKI

やまざき えいこ:63歳/中原区の訪問介護支援事業所に勤務。ホームヘルパー。
結婚・出産後、理系女子から転身。2人の子どもの育てながら「介護福祉士」「同行支援従業者」を取得し、ホームヘルパーとして20年以上勤務。目標は、78歳まで介護士として働くこと。



日々の現場での刺激が
仕事を続けるエネルギー

山崎さんは結婚・出産後に
ホームヘルパーを始められたのですか？

結婚前は、建築や機械系といった理系分野の仕事をしていました。その後、結婚・出産し仕事復帰するときに、これまでとは全く異なる福祉の仕事してみようと思ったんです。育ての親のように接してくれた叔母の認知症に気づかず、何もお世話をしあげられなかったことが心残り...それを他の方々に差し上げることで、自分の気持ちが救われるような気がしたんでしょうね。

数ある福祉職の中でホームヘルパーを選んだのは、訪問単位で仕事を組み立てられるからです。たとえば訪問と訪問の間に時間が取れば、自宅に戻って家事をしたり別の用事を済ませたりと、ある程度融通が効きます。仕事と家事のバランスを取りながら無理なくキャリアを積んでいけるので、主婦の方にぜひおすすめしたい仕事です。私のように子育てがひと段落してから、仕事量を増やして働くことも可能です。

介護職の魅力は
どういったところにありますか？

介護の仕事を始め、まず世の中には本当にさまざまな方がいることに気づ

かされました。戦争を体験された方は物をとても大事になさるし、たとえば煮魚の汁一つとっても、それぞれ活用の仕方が違う。その方の人生経験や考え方に触れ、生活を知ることが日々刺激的なんです。

また、声かけの工夫ひとつで状況が好転していく経験も、介護の仕事をやめられない理由ですね。何ヶ月も入浴を拒んでいる認知症の方を何とかしてお風呂に入れなければならない、という現場がありました。どうしたら入ってもらえるのかと試行錯誤していたときに、その方が奥様のことをとても愛していらっやして、寝たきりの奥様を一生懸命介抱していた風景が頭をよぎったのです。

これだ!と思い、「奥さんもお風呂に入るととても気持ちが良かったと言っていたから、ちょっと入ってみない?」と声をかけてみました。すると、「ああそうか。じゃあ入ってみようか。」と入浴してくれました。タイミングやその時ご本人の気分などさまざまな要素が絡んで生まれた結果ですが、思わず「よし!」とガッツポーズをしてしまうぐらいの達成感がありました。利用者さんと心が通じたとき、本当にこの仕事をしてよかったと感じます。

これからホームヘルパーの仕事に
始める方にアドバイスはありますか？

ホームヘルパーは1人で現場に行く仕事なので、「全部1人で判断し、行動しなければいけない」とプレッシャーを感じる方もいます。でも実際は、現場で何かあったらすぐサービス提供責任者に相談できますし、ヘルパー仲間も支えてくれるので、安心して仕事ができます。

とはいえ、20年以上この仕事をやっていても、初めての現場はとても緊張します。何気ない会話の中から心を通わせ、安心していただける関係性を築くためには、「コミュニケーション力」と「気づく力」が大切。大変なこともあります。それ以上に学びの多いとても刺激的な仕事ですよ!



買い物してきた食材を確認。そのあとさっそく調理タイムですが利用者さんができる作業はできるだけ自分でしてもらいます。



介護の現場では介護職員（主に介護福祉士など）に、
 看護職員や機能訓練指導員、栄養士など、さまざまな職種のスタッフが協力しあい、
 利用者の日常生活をサポートしています。
 また介護サービスにも、入所・通所施設、訪問型などさまざまな種類が存在します。
 施設・事業所ごとにも特徴が異なるので、ぜひ自分の目標を叶えられる職場を探してみましょう。

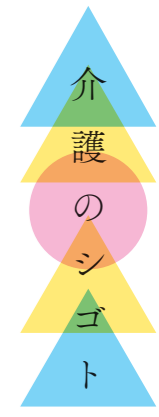
介護の職種
 介護の職場では介護職以外にもいろいろなスタッフが働いています。
 主な介護に関連する職種をご紹介します。

<p>介護職員 (介護福祉士など)</p>  <p>食事介助や排せつ介助、入浴介助、更衣、口腔ケア、清拭などにより、利用者が一人で行うことが困難な生活全般の支援をします。 また、訪問介護員は、これに加え、自宅に訪問し、通院や買い物などの外出時の支援や日常の調理などの生活支援も行います。</p>	<p>介護支援専門員 (ケアマネジャー)</p>  <p>利用者が自立した日常生活が送れるように、心身の状況に合わせた適切な介護サービス計画(ケアプラン)を立てサポートします。</p>	
<p>生活相談員 (社会福祉士など)</p>  <p>施設で利用者の入所から生活までの相談援助・指導業務を担います。ときには医療施設や公的機関との連絡や調整も行います。</p>	<p>機能訓練指導員 (理学療法士・作業療法士など)</p>  <p>病気や怪我、加齢などが原因で、自力で日常生活を送ることが困難な利用者には、リハビリや機能訓練を行いサポートします。</p>	<p>医療職員 (看護師など)</p>  <p>主治医、ケアマネジャー、薬剤師、歯科医師などと連携を図り、利用者の病気や障害に応じた健康管理・医療処置を行います。</p>
<p>栄養士 (栄養管理士など)</p>  <p>健康や栄養状態に応じて、個別の栄養ケア計画の作成、実施などのマネジメントを行い、利用者の健康をサポートします。</p>	<p>介護事務</p>  <p>窓口業務や電話対応、労務管理、経理、備品類の管理、各種書類の作成、介助補助など、さまざまな業務を担当するオールラウンダーです。</p>	<p>シ ア ワ セ の 届 け 方 イ ロ イ ロ あ り ま す</p>

主な介護サービス
 介護に携わる介護・看護職の方が働く主なサービスです。

<p>特別養護老人ホーム (介護老人福祉施設)</p> <p>在宅での生活が困難になった要介護3以上の高齢者が入居でき、原則として終身に渡って介護が受けられる施設です。民間運営の有料老人ホームなどと比べると費用が安いのが特徴です。</p>	<p>介護老人保健施設</p> <p>退院後すぐの要介護1以上の方が、身体介護、医療的管理、リハビリテーションによって、在宅復帰を目指す公的施設です。原則3～6ヶ月の短期入所です。</p>	
<p>老人ホーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ●介護付有料老人ホーム <p>主に民間業者が運営する居住型の施設です。要介護者のみが入居できる「介護専用型」と、自立・要支援と要介護の方を対象にした「混合型」があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●軽費老人ホーム <p>60歳以上で、自立して生活することに不安がある身寄りのない人、家族による援助を受けることが困難な方などが入所できる施設です。食事提供の有無でA型、B型、C型に分けられます。</p>	
<p>障害者支援施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ●入所(障害程度区分4以上) <p>主に身体・知的・精神などの障害種別サービスを統合した施設です。夜間から早朝にかけてのサービスもあり、生活に必要な介護サービスの提供、支援を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●通所(障害程度区分3以上) <p>主に生活介護中心の施設です。個別状況により支援内容は異なりますが、必要な介護サービスや食事提供、創作・生産活動などの機会を提供します。また、生活相談や助言なども行います。</p>	
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ●サービス付き高齢者住宅 <p>介護サービスや生活支援サポートを受けられる住宅です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●グループホーム <p>地域での共同生活の場において、日常生活上のサポートを受けながら少人数で共同生活を送ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●小規模多機能 <p>デイサービス、訪問介護、ショートステイを組み合わせた地域密着型のサービスです。</p>
<p>訪問介護(ホームヘルプ)</p> <p>自宅に介護職員が訪問し、身体介護や生活援助、外出のサポートなどにより、自立した生活を支援するサービスです。</p>	<p>通所介護(デイサービス)</p> <p>入浴、排せつ、食事等の介助や機能訓練を日帰りで受ける施設です。自宅から施設への送迎もあります。</p>	<p>定期巡回・随時対応型訪問介護看護</p> <p>介護職員や看護師が関係機関と連携を図り、定期巡回、随時対応・訪問により在宅生活を24時間体制で支えるサービスです。</p>

● 高齢者介護関連 ● 医療・看護関連 ● 障害者関連



シ
ア
ワ
セ
を
届
け
る

シ
ゴ
ト
バ
で
す

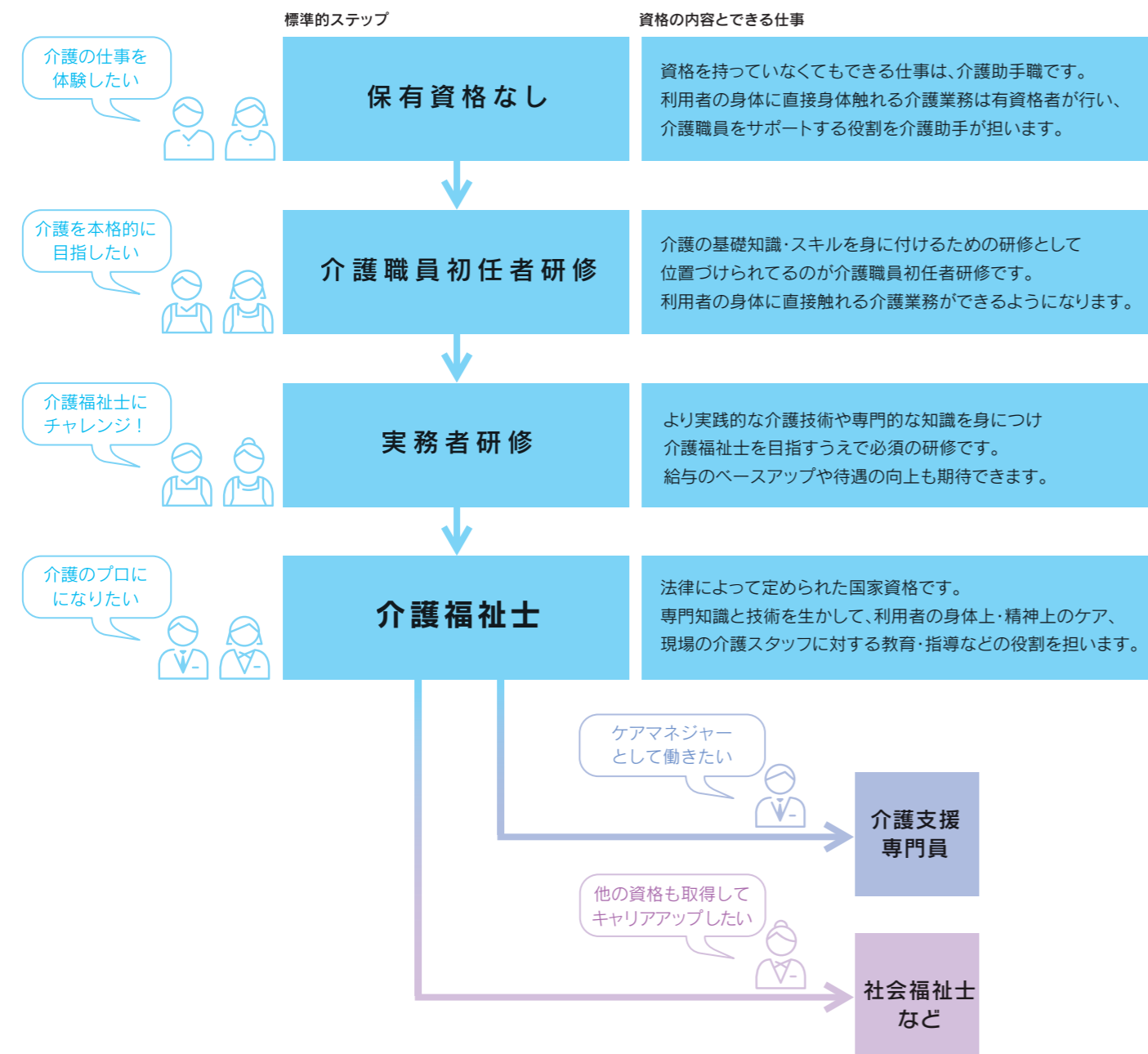
介護の仕事に就きたいと考えたとき、どのようなキャリア形成を考えていけば良いでしょうか。

介護の仕事には、介護の資格を持っていなくても働ける職種から、資格を取得して就く専門的な職種までさまざまな選択肢があり、複数の資格を組み合わせることでさらなるキャリアアップも目指せます。

また、フルタイム勤務、家事や子育てをしながらの短時間勤務、本業とのダブルワークなど、幅広い働き方のニーズに対応しているのも特徴です。

キャリアパス

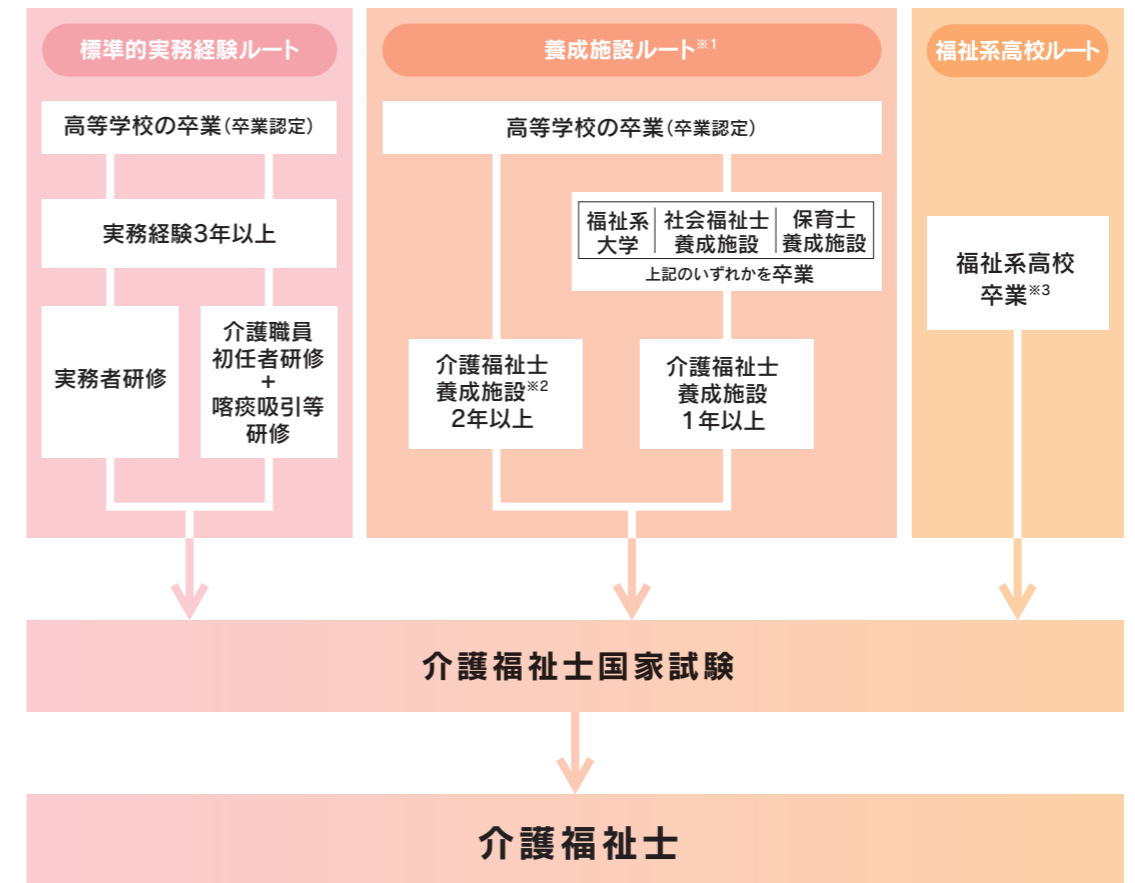
介護士のキャリアパスは、介護職員初任者研修から実務者研修、介護福祉士、さらに介護支援専門員や社会福祉士など他の職種への転身と続いています。資格取得により上位に行くにつれ、キャリアや給与の向上が期待できます。



キャリアアップ
シワセを届けて

介護福祉士への道

介護福祉士の資格を取得するルートは「標準的実務経験ルート」「養成施設ルート」「福祉系高等学校ルート」の3ルートと外国人を対象としたルート(EPAなど)があります。



※1 今までは国家試験を受験せずに介護福祉士資格を取得することが可能でしたが、2022年度以降は国家試験の受験が必須となりました。2017～2021年度の養成施設卒業者については、経過措置が取られることとなり、暫定的に5年の期限が付いた介護福祉士資格が授与されます。期限が切れた後も介護福祉士の資格を継続するには、5年間現場で勤め続けることで国家試験なしで資格を取得できます。
 ※2 厚生労働大臣指定の学校のことで、四年制大学、短期大学、専門学校などの種類に分けられます。参照：公益財団法人 日本介護福祉士養成施設協会 <http://kaiyokyo.net/school/index.html>
 ※3 2008年度以前に入学している人は、卒業後、筆記試験、実技試験に合格すれば介護福祉士の資格取得が可能です。(「介護技術講習」を受講している場合は、実技試験が免除となります。)
 福祉系特例高等学校を2009年度以降に入学した人は、卒業後に実務経験を9か月以上を経過した上で筆記試験、実技試験に合格すれば介護福祉士の資格取得が可能です。

